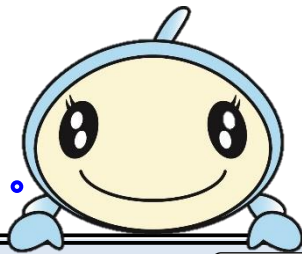


第7号
R5. 9月



【発行・編集】
滑川町教育委員会
TEL0493-56-6907

町の子供は町で育てる

「3つの合言葉」元気・学び・会話

滑川町教育委員会だより

「学んでよかった町へ -チーム滑川での教育-」

「しあわせ」

最近、「ウェルビーイング」という言葉をよく見かけます。この言葉は、世界保健機関（WHO）憲章に示されており、公益社団法人 日本 WHO 協会の文章を引用します。

Health is a state of complete physical, mental and social **well-being** and not merely the absence of disease or infirmity.

「健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいいます。」

ウェルビーイングは身体の状態が良好であるだけでなく、「肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態」の幸福を意味しています。

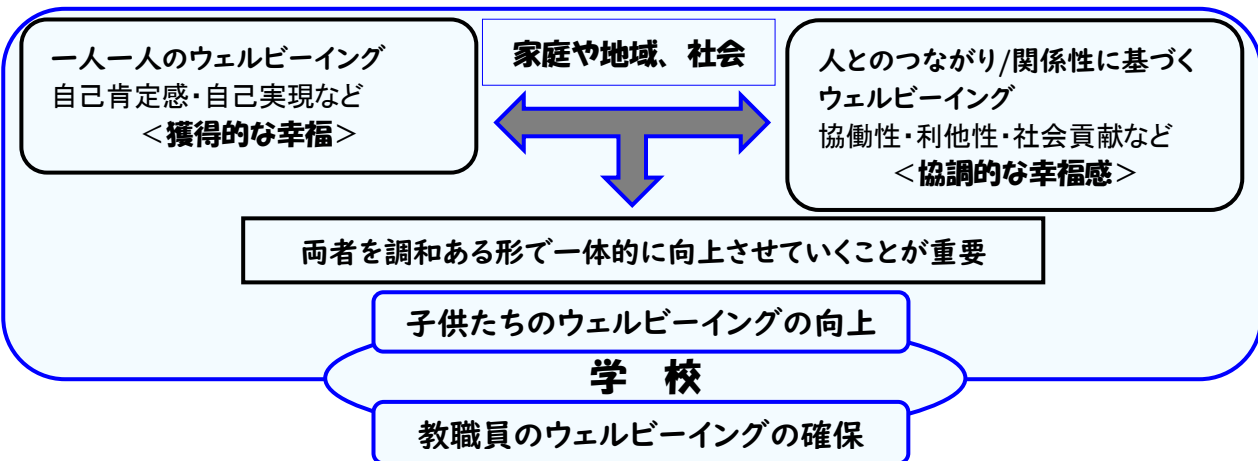
教育とウェルビーイングの関係も強く、これからの教育は、「日本型ウェルビーイング」と「教育 DX の推進」が重視されるようです。

「日本型ウェルビーイング」では、

「不登校やいじめ、貧困など、コロナ禍や社会構造の変化を背景として子供たちの抱える困難が多様化・複雑化する中で、**一人一人のウェルビーイングの確保**」

「子供・若者に、つながりや達成などからもたらされる自己肯定感を基盤として、主体性や創造力を育み、**持続可能な社会の創り手の育成**」

「地域における学びを通じて人々のつながりやかかわりを作り出し、共感的・協調的な関係性に基づく**地域コミュニティの基盤の形成**」などが重視されます。



かつては「仕合わせ」と書いており、尊い相手に仕えるという意味で、他人同士が「仕え合う」ことで相喜ぶことが「しあわせ」と捉えられていたようです。自分自身のためだけではなく、誰かを喜ばせたい、役に立ちたい、支えたいと思って行動して得た「しあわせ」の方がより大きいと感じています。「仕」を「支」にした支え合う「『支』合わせ（しあわせ）」をこれからは育んでいきたいと考えています。

自殺予防週間に思う

毎年、9月10日～16日は「自殺予防週間」とされています。昨年の自殺者は前年を上回り、特に小中高生の自殺者数が過去最多となるなど深刻な状況です。

悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る人のことを命の「門番」という意味で「ゲートキーパー」と呼ぶそうです。その役割は「気づき」「傾聴」「つなぎ」「見守り」の4つです。

「気づき」：家族や仲間の変化に気づいて、声をかける

「傾聴」：本人の気持ちを尊重し、耳を傾ける

「つなぎ」：早めに専門家に相談するよう促す

「見守り」：温かく寄り添いながら、じっくりと見守る

また、ゲートキーパーとしての心がけも参考までに紹介します。

- ・自ら相手とかかわるための心の準備をする ・温かみのある対応をする
- ・真剣に聴いているという姿勢を相手に伝える ・相手の話を否定せずしっかりと聴く
- ・相手のこれまでの苦労をねぎらう ・心配していることを伝える
- ・分かりやすく、かつゆっくりと対応する ・一緒に考えることが支援だと考える
- ・自分が相談にのって困ったときのつなぎ先（相談窓口など）を知っておく

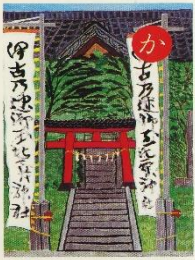
いずれにしても、身近に話を聞いてくれる人や寄り添ってくれる人がいることが大切です。このようなときに思い出すことわざがあります。「情けは人のためならず」です。情けをかけておけば必ず自らによい報いがあります。やはり、「つながり」が大切です。



滑川町のよさを知ろう！「滑川郷土かるた」を通して No.8

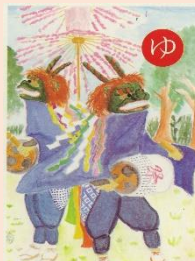
滑川町にはたくさんの神社があります。そのうち町で説明看板を立てているのが13社です。今月は「神社関連札」を紹介します。

下記4社と、福田淡州神社、福田浅間神社、上山田淡州神社、下山田大雷淡州神社、土塩淡州神社、和泉八宮神社、中尾雷電神社、水房阿和須神社、羽尾諏訪神社



海舟の 幟はためく 伊古神社

幟旗は、伊古の氏子が江戸の勝海舟のもとに頼みに行き、3日3晩墨すりをして書いてもらった大きなものです。現在、町の文化財に指定されています。また、伊古神社の社叢は、県指定の天然記念物です。伊古神社とは、伊古乃速御玉比売神社といって、旧比企郡内唯一の式内社とされています。勝海舟の幟旗は、全長 11m、幅 1.2mの大きさで、明治14年の作です。



勇壮に 舞って奉納 ささら獅子

昔の人たちは、農作物の豊作や、悪病の退散などをお祈りして、鎮守様に獅子舞を奉納しました。かつては、獅子舞が町内のあちらこちらにありましたが、現在は月輪地区と福田地区でその伝統を残し勇壮に舞われています。月輪神社、福田熊野神社の獅子舞は7月と10月の年2回行われ、篠笛と竹でできた「ささら」という楽器で伴奏しています。



朗々と 羽尾神社の 勧学祭

勧学祭は、学問の勧めの祭りです。その年、小学校に入学する子供たちが、学びの道に健やかに精進できるよう神の御加護を祈願する行事で、昔は各地で行われていました。羽尾では宮司の設楽氏がいち早く復活させました。学業成就の他交通安全・身体健康も併せて祈願します。